

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会

平成27年4月28日同時配布

平成27年4月28日
道 路 局
国土技術政策総合研究所

道路政策の課題をブレイクスルーする研究を新規に4件採択

～「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」研究募集の審査結果について～

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合し、道路政策の質を一層向上させるため、平成16年10月より新道路技術会議（委員長：石田東生 筑波大学大学院教授）を設置しております。

平成26年11月10日から12月11日のまでの期間、平成27年度から取り組む技術研究開発の募集を実施したところ、30件の応募がありました。

応募いただいた技術研究開発について、平成27年3月19日に開催しました「第26回 新道路技術会議」において審査を行った結果、別紙のとおり4件が採択されましたのでお知らせいたします。

会議内容の詳細は、国土交通省道路局「道路政策の技術研究開発」のホームページに掲載しております。

（ホームページURL <http://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>）

※新道路技術会議では、道路政策の質の向上に資する技術研究開発を公募し、平成17年度8件、平成18年度3件、平成19年度3件、平成20年度5件、平成21年度6件、平成22年度4件、平成24年度10件、平成25年度5件、平成26年度6件を採択し、技術研究開発が行われているところです。

<問い合わせ先>

道路局国道・防災課

課長補佐 中川 敏正

代表 03-5253-8111（内線 37862）直通 03-5253-8492

FAX 03-5253-1620

国土技術政策総合研究所

道路研究官 稲野 茂

直通 029-864-7194 FAX 029-864-0178

※本記者発表資料については、国土交通省ホームページ（アドレス：<http://www.mlit.go.jp>）にも掲載しています。

「新道路技術会議」による審査の結果、採択された研究（研究テーマ名と応募時の提案概要等）は以下のとおり。

【政策領域 2：道路ネットワークの形成と有効活用】

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究 テーマ名	災害・日常時の道路の信頼性とその総合・長期的評価の研究開発 ：幹線道路ネットワークデザインと維持管理計画※	中山 晶一郎 (金沢大学)
提案概要	災害・日常時の両方で信頼性の高い道路ネットワークの整備を目指して、連結・時間信頼性を考慮した総合的な便益評価法を実用化し、それを用いた道路ネットワークデザイン手法を提案する。そのために、自動運転車の高精度な走行環境計測データを使った災害等に対する道路施設の脆弱性評価や通常時旅行時間変動の推定という要素技術を開発する。また、長期にわたり信頼性を確保するためにその維持管理計画策定法も提案する。	

※ F S（革新的研究調査）研究として採択。

【政策領域 3：新たな情報サービスと利用者満足度向上】

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究 テーマ名	多様な観測データの活用による道路情報提供の研究開発※	佐々木 邦明 (山梨大学)
提案概要	本研究課題は、多様な観測データが利用可能になってきたことを活用し、観測データを援用した道路や空間の状態変化を高精度に予測できる交通シミュレーションの開発を目的としている。状態変化とは、短期の経路別の需要変化や、ゾーンの時間帯別滞在人数、事故等のイベント検出等を指し、これらの予測結果を活用して情報提供およびマネジメントを支援する。	

※ F S（革新的研究調査）研究として採択。

【政策領域 4：コスト構造改革】

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究 テーマ名	沢埋め道路盛土の経済的な耐震診断と耐震補強の開発	澁谷 啓 (神戸大学)
提案概要	耐震性が低い沢埋めの道路盛土を対象に、経済的な耐震診断法と耐震補強工を開発する。事前情報に基づいた物理探査と簡易なサウンディングの組合せ調査と、土のう構造体による法先補強が特長である。Eーディフェンスを利用した‘実物実験’により有効性を検証する。	

【政策領域 8：道路資産の保全】

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究 テーマ名	薄板モルタルとデータ同化手法を利用したコンクリート橋の 3 次元塩分浸透予測手法の開発※	佐伯 竜彦 (新潟大学)
提案概要	道路管理者が塩害橋梁の維持管理を行う際意思決定を支援するツールの一つとして、飛来塩分環境下にあるコンクリート橋の全表面における塩分浸透境界条件を定量的に把握し、コンクリートへの塩分浸透を 3 次元的に把握する実用的なシステムを開発する。	

※ F S（革新的研究調査）研究として採択。

政策領域 2、3、8（※を付しているもの）については、F S（革新的研究調査）研究として採択。その他の政策領域（1、5～7、9、10）及び特定課題については該当無し。

なお、採択された各研究課題については、新道路技術会議での審査時の審議内容に基づき、研究内容の調整等を行った上で、平成 27 年度の技術研究開発を進めていただくこととなります（応募及び審査結果の概要については、参考を参照）。

以 上

道路政策の質の向上に資する技術研究開発の応募及び審査結果の概要

		タイプⅠ 政策実現型	タイプⅡ 技術ブレイク スルー型	タイプⅢ 新政策領域 創造型	タイプⅣ 特定課題 対応型	FS 革新的 研究調査	合計	
		応募 (件)	応募 (件)	応募 (件)	応募 (件)	応募 (件)	応募 (件)	採択 (件)
領域1	新たな行政システムの創造	1				1	2	
領域2	道路ネットワークの形成と有効活用	1	1				2	1※
領域3	新たな情報サービスと利用者満足度向上	1	3	1			5	1※
領域4	コスト構造改革		1				1	1
領域5	美しい景観と快適で質の高い道空間の創出			1			1	
領域6	交通事故対策		1				1	
領域7	防災・災害復旧対策	1	5			1	7	
領域8	道路資産の保全	2	5				7	1※
領域9	沿道環境、生活環境	1				1	2	
領域10	自然環境、地球環境			1			1	
—	特定課題 (橋梁点検)				1		1	
合計(件)		7	16	3	1	3	30	4

※領域2、3、8(ソフト2件・ハード1件)は革新的研究調査(FS)採択を条件とする。